



# ふじ美が原

富士見中学校

## 中学校に入って成長したこと 部活の先輩の姿から学んだこと 責任ある立場で学んだこと

特集：一学期終業式  
成長したことと二学期の課題

「一学期終業式、教頭先生のお話」



### 「心の持ち方」

今日は校長先生が出張なので、代わって教頭が話します。

この言葉を知っていますか。「わたしは今まで一度も失敗をしたことがない。わたしは2万回も、電球が光らないという“発見”をしたのだ」そうですね。

トーマス・エジソン 1847年にアメリカ合衆国に生まれ、1931年八十四歳でなくなりました。発明王で、電話機・無線機・白熱電球・映画を発明しました。

今回は、この言葉を生み出したエジソンの「心の持ち方」を一緒に考えたいと思います。例を出します。

理科のテストの点数が悪くて、

ぼくは、理科が苦手だ。

理科のテストの点数が悪くて、

ぼくは、今はまだ理科が苦手だ。

この二つの心の持ち方、同じでしょうか。「理科が苦手だ」と自分で決めつけてしまうタイプの人は、自分で自分を決めつけ、自分にある能力に気づかないことがあります。そして、他人の目を気にするようにになり、失敗することを恐れるようになっていきます。理科の点数が悪い、という状況から自分のことを決めつけてしまうタイプは、何かにチャレンジする

よりも、今を何とか乗り切ろうとします。自分が安心するために、人の足を引っ張ったり、自分より点数が下の人を見つけないとしたりします。

それでは、「今はまだ理科が苦手だ」と考えるタイプの人は、どんな心持ちをしているのでしょうか。隣同士で話をしてみてください。発表できる人はいますか。

自分の可能性を信じていますよね。結果がでる、でないではなく、課題解決のプロセスを楽しもうとします。こういう心持ちをしているとチャレンジすることが増えます。失敗しても、この方法では失敗する、ということが分かったと考えます。

「今は…「まだ…」と考えられる心にならうたら、どうなるかって、校長先生が話してくれたでしょうか。そうですね、心が変われば行動が変わるでしたね。

そこで、理科のテストの点数が悪くて、ぼくは、今はまだ、理科が苦手だ。

このように考えたとき、どのような行動を起こせばよいでしょう。

一、絶対にできることをやると決め、行動を起こす

二、小さな成功(行動できたこと)を喜び

三、一番、二番を繰り返す

四、少しでもできることの難易度を高め、一番に戻る

「小さな成功(行動)を積み重ねる」「失敗してもこれが成功への道と考えること」で、だんだんと「なりたい自分」に変わっていきます。心の持ち方が変わること、行動が変わり、習慣も変わっていきます。

夏休み中、「ぼくは、○○ができない」と考えるのではなく、「ぼくは、今はまだ、○○ができない」と考え、小さな行動を起こしてほしいと思います。

【代表生徒 意見発表】

積極的に、簡単にあきらめなくなり、成長した一学期

一年一部 K・K

今日で、一学期が終わります。たくさん不安を抱えていた入学式の時の自分からは、想像がつかない暗い充実した三ヶ月でした。そんな、充実した一学期の中で、私が成長できたと感じたことが二つあります。

一つ目は、積極的に行動できるようになったことです。私は小さいころから人見知りで、モジモジしてしまうことが多かったのですが、新しい仲間と新しいクラスになじめるか心配でした。ですが、勇気を出して声をかけてみると、相手もたくさん話してくれて、すぐに友達が出来ました。それがきっかけで、私は自分から積極的に話しかけることが出来るようになりました。そして、話しかけること以外にも、色々なことが積極的に出来るようになり、今ではクラスの副ルーム長として、クラスをまとめたり、ルーム長のサポートをしています。

二つ目は、何事もすぐにあきらめなくなることです。私は、今年、ずっと前から興味を持っていた卓球部に入部しました。体験入部の時、とても上手な先輩がいて、かっこいいなという印象を受けました。私も、その先輩のようになりたいので、今も練習に励んでいます。最初のころは、ラケットにボールが当たらなかつたり、コートにボールが入らなかつたりと、失敗ばかりであきらめかけたことがありました。けれど、今までの大会で先輩の試合を見て、改めて私もこうなりたいた

